32nd IMAGE FORUM FESTIVAL

EXPERIMENTAL FILM / VIDEO
映像アートの祭典 **イメージフォーラム・フェスティバル2018**

スパイラルホール
8.8 (WED) — **12** (SUN)

シアター・イメージフォーラム
8.4 (SAT) — **12** (SUN)

テーマ：
ヴォイセズ

主催：イメージフォーラム
共催：ゲーテ・インスティトゥート東京（挑発する生 クリストフ・シュリンゲンジーフ）
助成：芸術文化振興基金助成事業
協賛：株式会社ダゲレオ出版
協力：オーストリア大使館／オーストリア文化フォーラム
　　渋谷東急REIホテル
会場協力：株式会社ワコールアートセンター
後援：ベルギー王国大使館
　　カナダ大使館

www.imageforumfestival.com

イラストレーション：近田春夫

32nd IMAGE FORUM FESTIVAL East Asian Experimental Competition

東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション

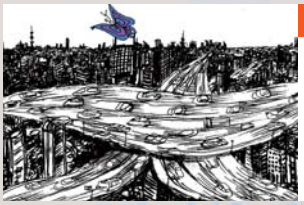
近年映像芸術分野で世界的に注目される中国、韓国、台湾からの応募も加わり、本年度から新しくなった公募部門「東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション」には、計451作品の応募があった。厳正なる第1次、第2次審査の結果、23作品がノミネート選出され、上映される。本フェスティバルの開催期間中に行われる最終審査によって、8月12日の授賞式で入賞5作品と観客賞を発表。観客賞は会場に設置された投票用紙に書き込むことで参加が可能。熱い一票を!

A 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション1
8作品97分

IF 8/6 13:00
SP 8/11 11:00

風にのるはなし
吉開菜央／デジタル／9分／2018 **(日本)**
自転車少女の妄想がスパークする! 米津玄師のMV『Lemon』で強烈な印象を残すダンサーでもある吉開菜央は、『ほったまるびより』(2015)で文化庁メディア芸術祭エンターテイメント部門新人賞を受賞、ICC「オープン・スペース2018」での最新作『Grand Bouquet／いま いちばん美しいあなたたちへ』が話題を呼んだ映像作家。

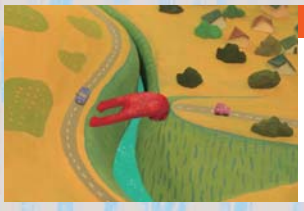
無念／Morning
ゾン・ヨッヘイ／デジタル／26分／2017 **(香港)**
黄昏時の教室での少女達の会話、奇妙な人物配置の食堂、積み重ねられる夢か現実か定かでない断章。アピチャッポン・ウィーラセタクンやカルロス・レイガダスの映画を想起させるマジック・リアリズム的映像美の世界。『アンダルシアの犬』へのオマージュ、『ダークナイト』などへの言及の先に、香港に内在する政治性が浮かび上がる。



東京逍遥
古川タク／デジタル／5分／2018 **(日本)**
インディペンデント・アニメーションの第一人者、古川タクの最新作。舞台は空の上。東京行の機内でまどろむ男。夢の中で男は蝶になり、東京を上空から観光する。作者独特の線画と展開で目まぐるしく変貌する都市の儚さを滲ませつつ、軽やかなタッチとユーモアが旅への期待を増幅させる。

#cloud
ペク・ジョングワン／デジタル／13分／2018 **(韓国)**
ホワイト・キューブを数点の固定カメラが交差して捉える。数人が壁際に並び、部屋を横断し、階段を登って去っていく。その謎に満ちた所作。画面には電子的ノイズが明滅して並び、時折、人物も歪む。現代の映画眼(キノグラース)がもたらすのは夥しい映像データの中に潜む予期せぬノイズなのだ。今年のチョンジュ国際映画祭でプレミア上映された挑戦的なエクスペリメンタル映画。

かえりみち
木山瑞嬉／デジタル／3分／2018 **(日本)**
父親がおんぶしてくれた帰り道、少女は背中でお相撲さんの夢を見る——。記憶の深部に迷い込んだかような奇想天外な光景がリズミカルに立ち現れるアニメーション。身体的な感覚をも掬い取る独特なドローイングが極めて個性的だ。本年のオーバーハウゼン国際短編映画祭コンペ部門ノミネート作品。



あかばしは落ちた
森永大貴／デジタル／8分／2018 **(日本)**
深い谷にかかる赤い橋=あかばしが、頭のない人型キャラクターとなって語りだす。あかばしとは、作者の地元、熊本の阿蘇大橋のこと。2016年に起こった大地震で崩落した。立体造形とドローイングをミックスしたアニメーションであり、故郷のランドマークを喪失した作者のパーソナルな心情を伝えるドキュメンタリーでもある。

Compliance Level 0
韓成南／デジタル／23分／2018 **(日本)**
ある女性派遣社員の本名が本人の意に反して社内に知られ、大企業の人事部が当人に謝罪するが、その機械的な対応がさらなる怒りを招く。大企業に毅然と立ち向かうひとりの在日コリアン女性の抗議から、人事部、そしてまたこの映画の観客も逃れられない。AR作品やパフォーマンス上演も手がける気鋭のアーティストによる知的に設計されたワンシーン・ドラマ。

山川景子は振り向かない
黒坂圭太／デジタル／10分／2017 **(日本)**
流麗な線と独特なナラティヴ性で知られる、日本を代表する実験アニメーション作家、黒坂圭太。山や川の景色は自らの意思で絶え間なく永遠に変化し続け、決して後戻りしないというテーマを追求した作品である。『陽気な風景たち』(2015)から続く、数千枚の鉛筆画による実験的な抽象アニメーション。

B 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション2
8作品97分

IF 8/6 15:45
SP 8/11 13:40

Highview
サイモン・リュー／35ミリ／19分／2017 **(香港、アメリカ、イギリス)**
作者のルーツである香港とイギリスのストーク=オン=トレントで撮影されたフィルムが、自家現像による鮮やかな色彩を得て爆発的なイメージの奔流を生成する。サイモン・リューは、本年まで3年連続でロッテルダム国際映画祭で作品が上映されるなど、世界から注目される気鋭の映画作家。オリジナルは16ミリ4台映写。IFFでは35ミリ版またはデジタル版で上映。

愛讃讃
池添俊／8ミリ／8分／2018 **(日本)**
10歳のころ、父が連れて来た新しいオカンは若い中国人だった。初めて作ってくれた地獄の池のような真っ赤な鍋、最初で最後の家族バーベキュー……。8ミリフィルムとデジタルの間で再撮影を繰り返して得られた独特の淡い色彩で描かれる、おぼろげな継母の肖像画。時代に捨てられつつあるメディアが、消え去りつつあった継母の記憶を呼び戻す。

何処かへ。
高橋良太／デジタル／7分／2018 **(日本)**
真っ暗な無人の教室。時間層を遡るかのようにカメラは下層に潜り、無限に教室が続き、やがて時空が歪み、椅子や机が洪水のように流される——。卓越したCG技術によるミニマルで詩的なアニメーション。冒頭に「これから上映される作品は、スマートフォンでの写真の撮影、SNSでのシェアを許可しております」の字幕があり、その真意はラストで明かされる。

ケアンの首達
副島しのぶ／デジタル／7分／2018 **(日本)**
鳥の首が壁のくぼみに飛び込む——。神秘的な死後の世界を描いた人形アニメーションで、アジアの民間伝承や宗教的モチーフのリサーチに基づいて制作されている。作者初のアニメーション作品ながら、すでに複数の国際アニメーション映画祭等から招待を受ける注目作。

最終審査員

シェリー・シルバー
（映像作家／アメリカ）
©cassandra guan

シャイ・ヘレディア
（映像作家、Experimentaディレクター／インド）

黒田育世
（BATIK主宰、振付家・ダンサー／日本）
©池谷友秀

授賞式　8/12　18:00（M-2 プログラム上映前）

大賞／1点	賞金30万円、賞状
寺山修司賞／1点	賞金10万円、賞状
優秀賞／3点	賞金3万円、賞状
観客賞／1点	賞状

註釈する女

イン・ウェイミン／デジタル／15分／2018　**（台湾）**
小劇場前の溜まり場で、なんでもありの摩訶不思議な群像劇が進行する。日本でも話題となった台湾のヒット映画『海角七号 君想う、国境の南』の出演俳優でもあるイン・ウェイミンは、映像や舞台演出、さらにはロックバンドのボーカルもこなすマルチ・アーティスト。その多才ぶりも堪能できる。

Railment

林俊作／デジタル／10分／2017　**（日本）**
電車の中にたった一人で乗っている孤独な男。緻密に描かれた横長の巨大な絵画を再構成し、時間と展開を生み出す気鋭の作家によるドローイング・アニメーション。その独特の技法は様々な映画祭、アニメーション・フェスティバルで高い評価を得ており、アナーバー映画祭アニメーション部門最高賞などを受賞している。

DREAMLAND

水江未来／デジタル／5分／2017　**（日本、フランス）**
今年のアヌシー国際アニメーション・フェスティバルの閉幕セレモニーで上映された、CGと見紛うばかりの手描アニメーション。幾何学図形の増殖と反復で永遠に完成しない「ドリームランド」を描く。一貫してアニメーションにおける抽象表現を追求する水江未来が、成長し続ける都市空間に永遠の想像力を重ね合わせて制作した4年ぶりの新作。

土の人（劇場版）

山城知佳子／デジタル／26分／2017　**（日本）**
韓国の済州島と、作者の出身地で一貫したモチーフである沖縄で撮影され、それぞれの歴史からインスパイアされたアイデアを元に幻想的で寓話にも見える物語を紡ぎ出している。あいちトリエンナーレ2016で発表された3面マルチの展示版を再構成した本「劇場版」で、本年度オーバーハウゼン国際短編映画祭で女性監督に贈られるゾンタ賞を受賞。

Chikako Yamashiro 'Mud man' 2017 supported by Aichi Trienniale
© Chikako Yamashiro, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

C 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション3
5作品95分

IF 8/7　13:00
SP 8/11 16:20

ヒトコト劇場

桜井順×古川タク／デジタル／37分／2018　**（日本）**
アニメーション作家古川タクとCM音楽界の巨匠で作詞作曲家の桜井順、合わせて160才!を超える2人のコラボ作品。インターネット同人誌で不定期に発表された、100本以上の「超短編」アニメーションで構成されている。二人の自由な精神が社会風刺、言葉遊び、哲学的考察……。と想像力の翼を広げていく。強烈なブラック・ユーモアもあり。

debris

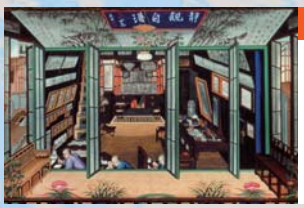
大島慶太郎／デジタル／11分／2018　**（日本）**
「デブリ（残骸、破片）」というタイトルの通り、傷ついたり褪色したフィルムの断片を素材として使い、縦横無尽に重ね合わせて編集することで、映像の織物を形成している。ブルース・コナーを起点とした実験映画におけるファウンド・フッテージの正統的な後継者である作者による、物語を失ったフィルムの断片で新たな映像詩を語る試み。

With Friction, As Friction

山田沙奈恵／デジタル／15分／2018　**（日本）**
雪深い新潟県十日町松之山。至るところに高く積もった雪を下ろす人々。日常的な雪下ろしの風景を丹念に撮影し、雪が積もるがごとく、映像に記録された人々の活動も堆積していき、やがて個人の活動は風景全体に溶け込んでいく。作者は、インスタレーション、写真、ドローイングなど様々な表現を横断する若手アーティスト。

AEON

宮嶋龍太郎／デジタル／4分／2017　**（日本）**
若手アニメーション作家宮嶋龍太郎による、宇宙で増殖するエネルギー体をイメージしたダイナミックな作品。刻々と視点が変わっていくメタモルフォーゼと、サウンドデザインが異次元に観客をいざなう。ザグレブ国際アニメーション映画祭など、各国のアニメーション映画祭で上映され、高い評価を得ている。



瘴気、植物、外銷画

ワン・ボー、パン・ルー／デジタル／28分／2017 **（中国、香港）**
アヘン戦争後、アジア特有の亜熱帯気候に苦しむ英国軍が進めたのは香港島での植林だった――。大英帝国の植民地主義が香港の空間と自然構造に与えた影響を紐解く本作は、清朝後期の絵画や『散りゆく花』（G.W.グリフィス/1919）、『慕情』（ヘンリー・キング/1955）などの映画の断片から多彩で緻密に構成された2面マルチ形式のドキュメンタリー。

D 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション4
1作品153分

SP 8/9　10:30
IF 8/10 16:15

スローモーション、ストップモーション

栗原みえ／デジタル／153分／2018　**（日本）**
現在の日本における日記映画の第一人者と言っても過言ではない、栗原みえの新作。タイと日本を往還して暮らす作者がタイ、ラオス、ミャンマーなどで撮りためた、日常や旅の光景がユーモアあふれるナレーションとともに物語を紡いでいく。小型カメラで自由闊達に撮影されたユニークな視点によるセルフドキュメンタリー。

E 東アジア・エクスペリメンタル・コンペティション5
1作品156分

SP 8/8　15:30
IF 8/10 19:30

長江の眺め

シュー・シン／デジタル／156分／2017　**（中国）**
中国の大河、長江を上海から四川省まで2,800キロをたどったドキュメンタリーで、元々はベルリン国際映画祭で銀熊賞を受賞した『長江　愛の詩』（2016）のメイキングとして撮影されていた。川沿いの風景に中国社会の現状が垣間見えるが、虚構と現実の境界を攪乱する特異な仕掛けも隠されている。昨年の山形国際ドキュメンタリー映画祭でも上映。

エクスペリメンタル・パノラマ

F 蟲（むし）
1作品98分

SP 8/8 19:00
SP 8/12 13:40

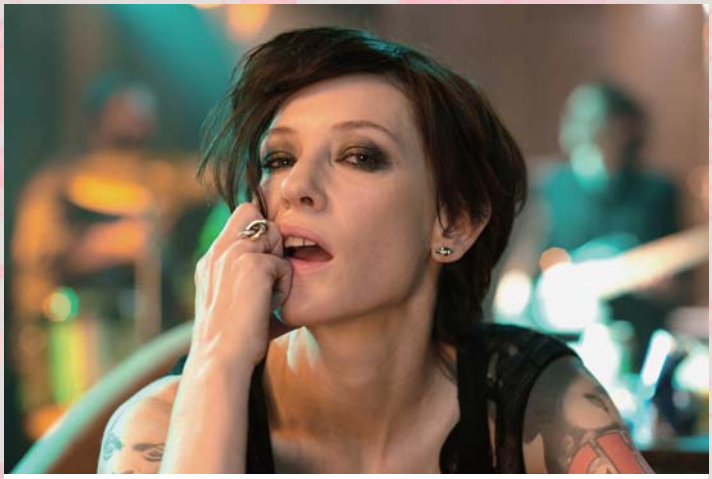
蟲
ヤン・シュヴァンクマイエル／デジタル／98分／2018（チェコ）

現代随一のシュルレアリストの巨匠、最新作にして“最後の”長編劇映画。

「ある小さな街で、劇団の俳優たちがチャペック兄弟の戯曲『虫の生活』のリハーサルを行っている。その最中、俳優たちの人生が、劇の登場人物たちの運命と混ざり合っていく」――シュヴァンクマイエル
カフカの『変身』よろしく、劇中に出演する監督本人も含め、人が虫に、虫が人に変容する。

G マニフェスト
1作品95分

IF 8/4 13:00
SP 8/12 11:00



©Julian Rosefeldt and VG Bild-Kunst

マニフェスト
ユリアン・ローゼフェルト／出演:ケイト・ブランシェット（『ブルージャスミン』『キャロル』）／デジタル／95分／2017（ドイツ）

ケイト・ブランシェット1人13役。現代に突き刺さる、アーティストたちの宣言。

マルクスからダダ、未来派からシチュアシオニスト、フルクサスからラース・フォン・トリアーまで……。20世紀を代表するアート宣言（マニフェスト）へのオマージュ。アカデミー賞女優のケイト・ブランシェットが、小学校の先生、パンク・ロッカー、ホームレスの男などに扮し、さまざまなマニフェストの精神を具現化する。20世紀アートを牽引してきた数々の有名フレーズが纏う情熱。それらの言葉は、現在生きる我々にどのように響くのか。

H マタンギ／マヤ／M.I.A.
1作品95分

SP 8/9 13:40
SP 8/11 19:00

マタンギ／マヤ／M.I.A.
スティーブ・ラブリッジ／デジタル／95分／2018（スリランカ・イギリス・アメリカ）

かつて難民だった少女はポップ・イコンとなった。革新的な音楽と時に過激すぎる表現で物議を醸すアーティストM.I.A.を追った、本年ベストの呼び声高い音楽ドキュメンタリー。

スリランカの内戦を逃れ9歳でイギリスに渡った少女マヤ。ヒップホップやストリート・アート、ロンドンの移民コミュニティに影響された独自の音楽を作るようになった彼女は、やがて世界的に有名なポップ・イコン、M.I.A.となる。その歯に衣着せぬ政治的物言いと、“バッド・ガール”なキャラクターは、常に批判の的だ。しかしM.I.Aの表現を形作ったのは内戦と、抵抗組織のリーダーである父の存在、そしてイギリスで移民として育った経験なのだった。彼女自身とその友人たちが撮りためた22年間の映像素材を元に制作されたドキュメンタリー。本年のサンダンス映画祭審査員賞受賞作品。

I カニバ
1作品95分

IF 8/6 21:15
SP 8/10 19:00

カニバ
ヴェレーナ・パラヴェル＋ルーシァン・キャステーヌ＝テイラー／デジタル／95分／2017（アメリカ、日本）

「パリ人肉事件」の佐川一政と、彼を献身的に介護する謎めいた弟を描いた不穏なポートレート。

2012年の本フェスティバルで上映され、大きな話題を呼んだ『リヴァイアサン』のコンビが、今回は人間存在の深淵を覗き込む。佐川一政という人物を通して、「カニバリズム」という、人間の受け入れがたい欲望についての考察がなされる。センセーショナリズムを排したカメラが、佐川の日常と、それを献身的に支える弟をクローズアップで追ううちに、やがて衝撃的な物語が浮上する……。昨年のヴェネチア映画祭オリゾンティ部門審査員特別賞受賞作品。

J 短編プログラム:「たどり着かない物語」
4作品76分

IF 8/4 15:45
SP 8/9 16:20

サウンドマンの死

政治的な暗喩、人物探索、虚実のトリック、論理的遊戯。一筋縄ではいかない映像による謎かけ4題。

サウンドマンの死
ソラヨス・プラパパン／デジタル／16分／2017（タイ）
ある映画の音響効果担当の二人。いい音を作ろうと、ソーセージ、旗、ラクダなどを使っていろいろな音素材を採集する。しかし、彼らには悩みがある。効果音は、映画を観ている人にとってそれほど重要なものなのだろうか? ユーモラスさの裏に潜むタイの政治状況への含意が、ブラックな味わいを際立たせる作品。

思い出された映画
イサベル・トゥレナエレ／デジタル／18分／2018（ベルギー）
美しい森の中、迷彩服姿でうろつく少年たち。時折銃声が聞こえる。少年たちは、カメラに向かって戦場での経験を興奮気味に語る。ベトナム? イラク? ヨーロッパ戦線? 彼らが語る内容は判然とせずチグハグだ。姿や身振りもどこかおかしい。事実と想像の混同が、不思議な魅力を生む、ひねりの利いたドキュメンタリー。

分身
ロイ・フィレフォイエ＋ヤン・ディートフォルスト／デジタル／22分／2015（オランダ）
ある白人男性の精巧な人形が作られている。これは一体誰なのか? いくつかの声が、この男について物語る。やがてカメラはパプア・ニューギニアのジャングルの奥地へと進んでいく。文字通りの“人物像”が、重層的に立ち上がり、理解できたと思う間もなくさらに謎が深まっていく、奇妙なポートレート。

論旨（注釈付き）
ダニエル・コックバーン／デジタル／20分／2017（カナダ）
ナレーションが一つの疑問を呈し、それがまた別の疑問を呼び、それがまた次の疑問を呼ぶ。T.S.エリオット、ホメロス、グルーチョ・マルクス、ジョン・カーペンター、テレンス・デイヴィスらの作品を引用しながら、やがてその問いの主体さえもが問われる事態へと発展していく、巧妙な論理的遊戯。

K アニメーション特集:「不眠者のための夢の王国」
3作品77分

SP 8/9 19:00
SP 8/12 16:00

この素晴らしいケーキ!

植民地を我がものとしたい王様、郊外のショッピング・モールで働く従業員、DJ男とよりを戻したい女。孤独な魂の夢は夜ひらく。期待のアニメーション作家たちによる話題の最新作。

心の重し
ニキ・リンドロース・フォン・バール／デジタル／15分／2017（スウェーデン）
高速道路脇のモールで展開されるダーク・ミュージカル。魚や猿やハダカネズミが、それぞれの職場で退屈と存在の不安を紛らわすために歌って踊る。2017年のアヌシー国際アニメーション映画祭グランプリを始め、28の国際映画祭で受賞した話題作。監督はIFF2015で上映された異様な3Dアニメーション『プール』のニキ・リンドロース・フォン・バール。

ビニール袋の夜
ガブリエル・アレル／デジタル／18分／2018（フランス）
子供がとにかく欲しいアガタ、39歳。マルセイユでDJをしている元彼とよりを戻そうと会いに行くが、何の異変か、街ではビニール袋が意志を持ち、人々を襲い始める……。前作『ユル・アンド・ザ・スネーク』にて文化庁メディア芸術祭や広島国際アニメーションフェスティバルで受賞したガブリエル・アレルの最新作。

この素晴らしいケーキ!
エマ・ドゥ・スワーフ＋マーク・ジェイムス・ロエルズ／デジタル／44分／2018（ベルギー）
19世紀の末、植民地のコンゴ。不眠に悩まされる王、高級ホテルで奴隷として働くピグミー族の男、探検に出て帰らぬ人となった商人、迷子のポーター、脱走した兵士、5つの物語を描く人形アニメーション。本年のカンヌ監督週間招待作品。

L インド・エキスペリメンタ・プログラム
4作品78分

IF 8/9 18:30
SP 8/10 11:00

失われた頭と鳥

これまで日本でほぼ上映されることのなかったインドの映像アートを集めた貴重なプログラム。
3時間を超える歌と踊りの長尺映画で有名なインドだが、いわゆるアヴァンギャルド映画やアーティスト(マテリアリティ)によるビデオ作品については、日本で殆ど知られていない。南インドで隔年に開催されている映像祭Experimentaのディレクターが選定する、フィルムの物質性や、映像ならではの言語の探求を試みた先鋭的な作品を上映。
キュレーション:シャイ・ヘレディア(Experimenta ディレクター)

失われた頭と鳥
ソーラブ・フラ/デジタル/10分/2018
インドの沿岸部を旅して撮りためた写真と、インターネットで拾い集めた素材を元に、現代のメディアスケープを描き出す。2018年のオーバーハウゼン国際短編映画祭審査員特別賞受賞。

サキソナ
プランティク・バス/デジタル/26分/2016
西ベンガルの南方に、サキソナと地元で呼ばれる山々がある。その近くで発掘された6世紀前後の遺物とその山にまつわる民話が一つに紡がれる。2017年のロッテルダム国際映画祭短編部門タイガー・アワード受賞作品。

正午の診療所
プリヤ・セン/デジタル/27分/2014
デリーの再定住地域にある、政府運営の無料診療所でシネマ・ヴェリテ式に撮影されたドキュメンタリー。都市の違法な住人が合法な住人へと生まれ変わるその過程をカメラは切り取る。

私はミクロ
シュモナ・ゴエル+シャイ・ヘレディア/35ミリ(デジタル上映)/15分/2015
打ち捨てられたレンズ工場を舞台に、低予算映画制作クルーの思い出が語られる。白黒フィルムで撮影された美しい実験的エッセイ作品。

M シェリー・シルバー特集 変わるもの、変わらないもの

共同の記憶や、社会の歴史などのパブリックな物語と、個人のプライベートな物語とが交錯し、せめぎ合う場所に常に視線を投げかけてきたニューヨーク在住の写真家・映像作家、シェリー・シルバーの作品を特集。シルバーは、ベルリン映画祭やロンドン映画祭、ポンピドゥー・センター、ニューヨーク近代美術館での上映など、映画と美術を跨いで活躍する映像アーティストとしては80年代以降の長いキャリアを誇る。

M-1 シェリー・シルバー特集1
4作品72分

IF 8/5 15:45

このフィルム

移ろいゆく街角の風景と人々の現在を、映像で留めようと試みる。しかしフィルムに定着したと思ったイメージも、完成した瞬間から変わっていく。映画と時間、過去と今、現在と未来について思いを馳せるエッセイ・フィルム集。

このフィルム
シェリー・シルバー/音楽:アーノルド・ドレイブラット/16ミリ/7分/2018(アメリカ+ドイツ)
フィルムを敢えて高温多湿の状況に置き、どれだけの時間でどれほど劣化するかを検証するプロジェクトのために作られた作品。何気なく撮影されたようかに見える風景が、撮影された瞬間から2度と手にするこのできない、かけがえのないものになっていく。

チャイナタウンについての5つのレッスンと9つの質問
シェリー・シルバー/デジタル/10分/2009(アメリカ)
作者の住む近所にあるチャイナタウン。殆ど気を留めることのなかった、その毎日通る街角の背景にある、移民史、レイシズム、アメリカ史、中国史、排除の歴史、進行中のジェントリフィケーションについての物語が3つの言語で語られる。

振り向く
シェリー・シルバー/16ミリ/4分/2018(アメリカ+ドイツ)
ゴダール『勝手にしやがれ』ラスト・シーンのジーン・セバーグのアクションを、23人の女性が、2017年のベルリンの街角で、逆転して再演する。

ストレンジ・ニュー・ビューティー
シェリー・シルバー/デジタル/51分/2017(アメリカ)
人影のない、シリコン・バレーの大邸宅。煌めくような美しさと見せかけの静けさが、かえって観るものにその背後に潜む暴力を想像させる。

M-2 シェリー・シルバー特集2
2作品63分

SP 8/12 18:00

家を出るための37話

ダダイストの男爵夫人、母と自分との関係を語る日本人女性たち。女性たちの物語は常に歴史の後景に置かれて、忘却されるがままにされてきた。彼女たちの声に光が当たることで生まれる多層的な歴史。

ランプたち
シェリー・シルバー/デジタル/11分/2017(アメリカ)
エルサ・フォン・フライターク・ローリングホーフェン男爵夫人は、知られざるダダの活動家だ。アーティスト、詩人、逃亡者で扇動者の彼女は、歴史と社会のはみ出ものだった。本作は夫人が愛人とポンペイのエロティックなオブジェに満ちた秘密の部屋「イル・ガビネット・セグレート」に入り込んだ時の様子を描く。

家を出ることについての37話
シェリー・シルバー/デジタル/52分/1996(アメリカ)
日本の15歳から83歳の祖母・母・娘たちが、家族との関係、人生における選択、社会と自分の関係について語る。子供から大人へと変わりゆく私的な旅路——家を出るという体験が、親密なインタビューの元に明らかにされていく。1997年のイメージフォーラム・フェスティバルで上映されたエッセイ・フィルム。撮影から20年、日本の母と娘たちはどのように変わったのか、あるいは変わっていないのか。

N かわなかのぶひろ特集 『これまでの経緯』と『あれから、また、五年』
2作品85分

IF 8/5 13:00

『これまでの経緯』

かわなかのぶひろは近年、パーソナルな視点から自身の日常を撮り続けた膨大なフッテージを駆使して作品を構成してきた。今回のプログラムでは、自身が作家、オルガナイザーとして勃興期から関わってきた日本の実験映画、個人映画の歩みを振り返る。
「なにげない日常から映像のことばを発見する…。自分が辿ってきた映像の道を若い世代に伝える試み」(かわなかのぶひろ)

『これまでの経緯』 かわなかのぶひろ/デジタル/60分/2018(日本)
『あれから、また、五年』 かわなかのぶひろ/デジタル/25分/2018(日本)

インスタレーション
灯籠譚 伊藤隆介/インスタレーション/2018(日本)
精巧なミニチュアと映像装置を用いて映像メディアの特性をユーモラスに示す伊藤隆介のビデオ・インスタレーション、最新作を発表。廃棄されたスライド投影機(幻灯機)をモチーフに、人類と映像(イメージ)の関係を批評的に構成する。スパイラルホールで会期中展示。※展示時間はウェブサイトをご確認ください

O 奥山順市特集 「フィルムそのもの」が語りかける
6作品48分+レクチャー

IF 8/4 18:30

フレームレス DS 8

実験映画ひとすじのフィルム・マイスターによるレクチャー付き上映
フィルムを燃やす、楽器にする、カメラも自分で改造する…。一貫して映画やフィルムの原理、構造をテーマにして制作を続けている奥山順市の最新作『フレームレスDS8』と、多数のフィルモグラフィーから「映画のフレーム」に関する作品をセレクトして作者自身のレクチャーとともに上映。奥山順市はフィルムというハードウェアからいかに発想しているのか。縦横無尽に語る!

フレームレス35	奥山順市/35ミリ/3分/1968(日本)
フレームレス16	奥山順市/16ミリ/3分/1971(日本)
ノー・パーフォレーションズ	奥山順市/16ミリ/10分/1971(日本)
MOVIE WATCHING	奥山順市/16ミリ/12分/1982(日本)
W8は16ミリ	奥山順市/16ミリ/11分/2006(日本)
フレームレス DS 8	奥山順市/デジタル/9分/2018(日本)

※上映フォーマットは変更になる場合があります

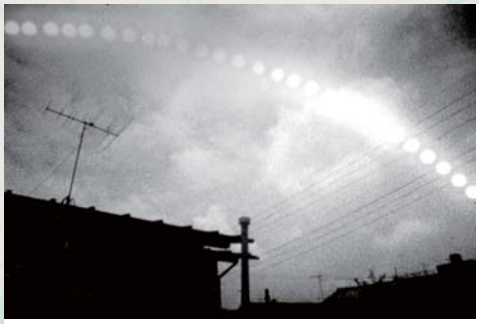
フィルムメーカーズ・イン・フォーカス

P 追悼・山崎博

山崎博（1946-2017）は、長時間露光を駆使し、時間と光の関係を捉えるコンセプチュアルな写真作品で知られるが、写真作品と並行して多くの映像作品も手がけている。ランダムに露出を変えて風景をコマ撮りする処女作『FIX』、多重露光で太陽を捉えた『観測概念』、コマ撮りで太陽の動きを追う『HELIOGRAPHY』など、山崎が手がけた映像作品は写真作品と同様、繊細な技術を駆使しながらも大胆な映像表現で観客を魅了する。
また、P-2プログラムでは、10代からの友人であり、山崎博を映像制作へと導いた萩原朔美が制作した新作エッセイ映画『山崎博の海』も併せて上映する。

P-1 山崎博作品集1
11作品69分

SP 8/10 13:00


観測概念

FIX	山崎博／16ミリ／5分／1972
FIXED-NIGHT	山崎博／16ミリ／6分／1972
FIXED STAR	山崎博／16ミリ／7分／1973
A STORY	山崎博／16ミリ／6分／1973
60	山崎博／16ミリ／1分／1973
NOON	山崎博／16ミリ／3分／1976
観測概念	山崎博／16ミリ／10分／1975
epilogue	山崎博／16ミリ／1分／1976
MOTION	山崎博／16ミリ／10分／1980
GEOGRAPHY	山崎博／16ミリ／7分／1981
[kei]・1991	山崎博／ビデオ／13分／1991

P-2 山崎博作品集2+山崎博の海
8作品62分

SP 8/10 14:30

HELIOGRAPHY

VISION TAKE 1	山崎博／8ミリ／3分／1973
VISION TAKE 3	山崎博／16ミリ／3分／1978
HELIOGRAPHY	山崎博／16ミリ／6分／1979
WALKING WORKS	山崎博／16ミリ／5分／1983
3・・・	山崎博／16ミリ／5分／1984
WINDS	山崎博／16ミリ／6分／1985
櫻	山崎博／ビデオ／19分／1989
山崎博の海	萩原朔美／デジタル／20分／2018

Q クルト・クレン、フレームの王
16作品61分

IF 8/7 21:15
SP 8/10 16:20

6/64 ママとパパ

ニューヨーク近代美術館での上映やオーストリア・フィルム博物館の修復プロジェクトなど、近年再評価が高まる“構造映画”のマスター、クルト・クレンの特集プログラム。
クルト・クレン（1928−1998）は、あらかじめ設定したチャートに基づいて一コマずつ撮影することで、既存の“映画”についての概念を解体した。オットー・ミュールやギュンター・ブルスらウィーン・アクショニズムのパフォーマンスを記録した一連の作品群がよく知られているクレンだが、その綿密に計算されたフレームの連なりが与えるパンクな精神とリリカルな詩情に魅入られる。クレン没後20年にあたって、オーストリア・フィルム博物館が修復・デジタル化したリマスター版を上映する。
キュレーション:ブリギッタ・ブルガー＝ウツァー（ディレクター、シックスパックフィルム）

レクチャー:
「クルト・クレンとオーストリア・アヴァンギャルド」
8／10（金）16:20上映後　西嶋憲生（映像研究者）

1/57 人工音の実験	クルト・クレン／16ミリ／2分／1957
2/60 ソンディ・テストの48の顔	クルト・クレン／16ミリ／4分／1960
3/60 秋の木々	クルト・クレン／16ミリ／5分／1960
6/64 ママとパパ	クルト・クレン／16ミリ／4分／1964
8/64 アナーアクション・ブルス	クルト・クレン／16ミリ／3分／1964
9/64 オー・クリスマス・ツリー	クルト・クレン／16ミリ／3分／1964
11/65 ヘルガ・フィリップの絵	クルト・クレン／16ミリ／2分／1965
15/67 テレビ	クルト・クレン／16ミリ／4分／1967
31/75 避難所	クルト・クレン／16ミリ／8分／1975
32/76 W+Bへ	クルト・クレン／16ミリ／7分／1976
33/77 ドナウではない	クルト・クレン／16ミリ／8分／1977
37/78 再び木	クルト・クレン／16ミリ／3分／1978
42/83 ノー・フィルム	クルト・クレン／16ミリ／1分／1983
44/85 Foot'-age shoot' out	クルト・クレン／16ミリ／3分／1985
46/90 FALTER 2	クルト・クレン／35ミリ／1分／1990
48/95 映画の千年	クルト・クレン／35ミリ／3分／1995

全てデジタル版上映／オーストリア

シンポジウム&レクチャー

R ANIME-ASEAN

東南アジアのアニメーション・シーンを紹介する3年間にわたるANIME-ASEANプロジェクトの総括プログラム。東南アジアの現代シーンに精通するキュレーター、ファブリツィオ・ジラルディーノが、近年の同地域の傑作アニメーションを選定。東南アジアの最新のアニメーション事情についてのレクチャーを行う。また、ジラルディーノが推薦する2名の作家がタイとインドネシアより来日し、自身の活動についてプレゼンテーションを行う。

共催:ANIME-ASEAN（クー、コーズサッチ、ニューディアー）
助成:国際交流基金アジアセンター

R-1 ANIME-ASEAN1
8作品70分

IF(3F) 8/12 14:00

灯りもなく暗くもなく

パントゥラの写真

座標35° 41′ 0″ N, 139° 41′ 0″ Eから覗き見る東南アジア現代アニメーション

アルフィーとプロメテウスの夢	マハティール・“ミルクス”・ブオン／デジタル／11分／2013（マレーシア）
灯りもなく暗くもなく	チャノン・トレーネット／デジタル／12分／2013（タイ）
メルシナ（パート2）	メーガン・パレーロ／デジタル／4分／2014（フィリピン）
であるべきもの	ジェロルド・チョン／デジタル／11分／2017（シンガポール）
うなり	バイリン・タンティプラソンチャーイ／デジタル／4分／2016（タイ）
時間についての略史	クレープFX（ダヴィアー・ユン+ジョシュア・タン）／デジタル／3分（シンガポール）
コンテインド	ハリー・チュアン+ヘンリー・チュアン／デジタル／5分／2010（シンガポール）
パントゥラの写真	ヒズキア・スピヤントロ／デジタル／20分／2016（インドネシア）

キュレーション:ファブリツィオ・ジラルディーノ

R-2 ANIME-ASEAN2
（約90分）

IF(3F) 8/12 17:00

タイとインドネシアのアニメーションの今:
作家による上映とトーク
東南アジア気鋭のアニメーション作家が自分たちの作品を含め、それぞれの地域のアニメーションシーンについて語る特別プログラム。
出演:ファブリツィオ・ジラルディーノ（イタリア／キュレーター）、タヌート・ルジタノート（タイ／アニメーション作家）、ヒズキア・スピヤントロ（インドネシア／アニメーション作家）

S 挑発する生　クリストフ・シュリンゲンジーフ

『ドイツチェーンソー　大量虐殺』や『ユナイテッド・トラッシュ』などで、日本ではカルト映画監督として名が知られているクリストフ・シュリンゲンジーフ。実験映画を出自とし、カルト映画作家としてのフィルモグラフィーを築いた彼は、やがて演劇やテレビ番組制作そして社会的アート・プロジェクト、または社会的弱者のための政党結成など活動を大きく広げていった。アフリカでのオペラハウス建築を計画中の2010年、惜しくもこの世を去ってしまったシュリンゲンジーフ。制作途中だった2011年のヴェネチア・ビエンナーレ展示作品は、その年の金獅子賞を受賞した。日本未公開の映像作品や、彼のパフォーマンス、TVショーなど、シュリンゲンジーフの幅広い活動を横断的に紹介する日本初の試み。

共催・プログラム提供:ゲーテ・インスティトゥート東京

テロ2000年 集中治療室

ボトロップの120日

友よ! 友よ! 友よ!

S-1 アドルフ・ヒトラー100年
2作品57分
IF 8/4 21:15
IF 8/7 15:45

アドルフ・ヒトラー100年——防空壕での総統の最後のひととき　クリストフ・シュリンゲンジーフ／出演:ウド・キア(ヒトラー)、アルフレッド・エデル(ゲーリング)、ディートリヒ・クールブロート(ゲッベルス)、ブリギッテ・カウシュ(エヴァ・ブラウン)他／16ミリ(デジタル版上映)／55分／1989(ドイツ)

地下壕でのヒトラー最期の数時間を描く、暗闇の狂騒。

第二次大戦から残る実際の塹壕を使用し、完全な暗闇の中16時間ぶっ通しで撮影された本作では、撮影が終わるまで俳優陣、スタッフともに外に出ることが一切許されなかった。真っ暗闇の中、監督が手に持つ懐中電灯だけが第三帝国崩壊時のカオスを照らし出す。短編作品『エリーゼのために』(2分／1982)を併映。

S-2 ドイツチェーンソー大量虐殺
1作品60分
IF 8/5 21:15
IF 8/8 21:15

ドイツチェーンソー大量虐殺　クリストフ・シュリンゲンジーフ／出演:カリーナ・ファレンシュタイン、ズザンネ・ブレデヘフト他／16ミリ(デジタル版上映)／60分／1990(ドイツ)

“彼らは友人として来訪し、ソーセージになった……”。シュリンゲンジーフの東西ドイツ統一に対する回答。

1989年11月、東西ドイツの国境が開放され、多くの東ドイツ人が西ドイツへと流入した。しかし、彼らの4%は旅半ばで行方不明となっていた……。トラッシュ・ホラーの体裁をとりながら、自由経済社会を肉市場に見立てて1990年の東西ドイツ統一への強烈な皮肉とした、シュリンゲンジーフの出世作。今回にあわせてHDデジタルリマスター版を上映。

S-3 テロ2000年 集中治療室
1作品60分
IF 8/6 18:30
IF 8/9 13:00

テロ2000年　集中治療室　クリストフ・シュリンゲンジーフ／共同脚本:オスカー・レーラー(『素粒子』)／出演:マルギット・カルステンセン(『ペトラ・フォン・カントの苦い涙』『マルタ』)、ペーター・カーン(『ラ・パロマ』『まわり道』)他／35ミリ(デジタル版上映)／60分／1990(ドイツ)

「ドイツ3部作」、邪悪・変態での集大成。

「ポーランド野郎を殺せ」。家具店のオーナーと司祭に扮したネオナチ二人組が、住民を組織し外国人移民を抹殺、民族浄化を目指す。そこへ難民殺害事件を捜査中の狂った刑事二人がやってきて、大騒動へと発展する……。現在のヘイト社会の戯画としても有効な“政治的に全く正しくない”バイオレンス抗争劇。『アドルフ・ヒトラー』、『ドイツチェーンソー大量虐殺』に続くシュリンゲンジーフ「ドイツ3部作」最終章。HDデジタルリマスター版上映。

S-4 ボトロップの120日
1作品60分
IF 8/5 18:30
IF 8/9 15:45

ボトロップの120日　クリストフ・シュリンゲンジーフ／出演:マルギット・カルステンセン、イルム・ヘルマン(『四季を売る男』『出稼ぎ野郎』)、フォルカー・シュペングラー(『マリア・ブラウンの結婚』)ヘルムート・バーガー(『ルートヴィヒ』『家族の肖像』)／16ミリ(デジタル版上映)／60分／1997(ドイツ)

ドイツ映画の破壊と再生を試みる、日本未公開劇映画作品。

ファスビンダー映画の常連俳優の生き残りたちが、“最後のニュージャーマン・シネマ作品”を制作するため再結集。パゾリーニの『ソドムの120日』のリメイクをするというのだ。しかし監督のシュリンゲンジーフは降板させられ、資金繰りに困ったプロデューサーはハリウッドにエージェントを送り込む……。

S-5 フリークスター3000
1作品75分
IF 8/7 18:30
IF 8/9 21:15

フリークスター3000　クリストフ・シュリンゲンジーフ／出演:アヒム・フォン・バチェンスキー、イルム・ヘルマン他／デジタル／75分／2003(ドイツ)

“普通”とは何か? 通常の常識を超えた最強のスター誕生。

知的障害者・身体障害者の参加者たちが、厳しい審査の末に、バンド“ネジを探す母”のメンバー7名に選抜されるまでを追ったスター誕生ショー。本作はドイツの若者向けチャンネルVIVAの最大人気となったテレビ番組の映画版である。これは“やらせ”それとも“ドキュメンタリー”? “社会的弱者の参加”か、“アートの名の下に行われる搾取”なのか?

S-6 友よ! 友よ! 友よ!
1作品73分
IF 8/8 18:30
IF 8/10 13:00

友よ! 友よ! 友よ!　アレクサンダー・グラセック+シュテファン・コリント／出演:クリストフ・シュリンゲンジーフ、花代他／デジタル／73分／1997年

ジャンキー、ホームレス、売春婦、障害者……。普段社会からのけものにされている人々を巻き込んで展開する、シュリンゲンジーフが行ったパフォーマンスの記録。

ハンブルク・ドイツ劇場の制作委嘱を受けたシュレンゲンジーフは、劇場の舞台から飛び出し、麻薬常習者や売春婦、ホームレスの住処となっていたハンブルク中央駅前にある建物を彼らのために開放し、7日間行動をともにする。報道陣や警察、救世軍の人々を巻き込み、街頭デモや公開討議、茶会や社会科見学などが行われた様子のドキュメント。

S-7 外国人よ、出て行け!
1作品90分
IF 8/8 13:00
IF 8/11 21:15

外国人よ、出て行け!　パウル・ポエット／出演:クリストフ・シュリンゲンジーフ他／デジタル／90分／2002(ドイツ+オーストリア)

メディア、市民が激怒!激しい論争を巻き起こした伝説的アクションの記録。

ある日、ウィーン歌劇場前にコンテナがいくつも設置される。そこには12人の難民申請者が入れられ、監視カメラで内部の映像が24時間ウェブ上に流される。毎晩ウェブ投票が行われ、視聴者の決めた2名が、コンテナから出され国外追放となる。最後に残った1名のみが、晴れてオーストリアの滞在許可を得られるのだ。反移民の極右政党が政権入りを果たした2000年のオーストリアを舞台に、シュリンゲンジーフが行った社会的パフォーマンス／アート・テロリズムの記録。

S-8 U3000
2作品64分
IF 8/8 15:45
IF 8/12 21:15

U3000「エピソード2　ヨーゼフ・ボイス+インド」(35分／2000年)
U3000「エピソード7　アフリカ」(29分／2001年)
クリストフ・シュリンゲンジーフ／デジタル／計64分／2000−2001

運行している最中のベルリン地下鉄7番線を舞台に放送された反=テレビ番組シリーズ。

映画や舞台、アートのアクションへと活動を広げていたシュリンゲンジーフは政党を結成、テレビ出演も多々行い、ドイツの文化的言説に影響を与える中心人物の一人となっていた。テレビ番組というフォーマットを借りて、既存のテレビ概念を内部から破壊しようと試みたシュリンゲンジーフによるTVシリーズ。2000年から2001年にかけて放映され大きな話題を呼んだ。

「挑発する生　クリストフ・シュリンゲンジーフ」トークゲスト

8／5(日)　18:30上映後　柳下毅一郎(映画評論家／特殊翻訳家)
8／7(火)　18:30上映後　古後奈緒子(舞踊史研究、舞台芸術批評、翻訳)
8／8(水)　18:30上映後　鴻英良(演劇批評家)

U ワーキングタイトル2018-2019 国際交流基金アジアセンター 上映企画・実践ワークショップ

映画の上映者(プログラマー、キュレーター)の育成を目的として、公募によって選ばれた日本と東南アジアの参加者たちが、グループワーク実習により協働してプログラミングを行い、東京とマニラで上映を行う企画。東京ではイメージフォーラム・フェスティバルと共同で、ワークショップとシンポジウム+参考上映が行われる。

シンポジウム
IF(3F) 8/12 11:15
「インディペンデント映画の上映が広げる可能性 ～日本・東南アジア　次世代上映家シンポジウム～ +参考上映」

登壇者:公募により選ばれた若手上映プログラマーたち(日本2名、東南アジア4名)、エドゥアルド・J・リハーノ(Qシネマ国際映画祭ディレクター)、クリス・フジワラ(映画批評家、映画プログラマー)
上映作品:フェスティバル期間中にホームページSNSにて発表
共催:国際交流基金アジアセンター

ミート・ザ・キュレーターズ

世界各地の重要な映画祭・美術館キュレーターが来場し、映像表現の最前線から、世界における映像地図、映画祭という場の現代的な役割など、フリーな形式でティーチ・インを行なう。本年はアジア地域にフォーカス。本フェスティバル半券提示で無料。(会場:イメージフォーラム 3F寺山修司　約60分)

8／8(水)19:00～
エドゥアルド・J・リハーノ(フィリピン／Qシネマ国際映画祭ディレクター)

8／9(木)20:30～
シャイ・ヘレディア(インド／Experimentaディレクター)

8/10(金)14:00～
サンディープ・チャンドラ・アシュワート(アニメーション研究者／インド)

イメージフォーラム・フェスティバルは、映像の最新表現を通して、これからの芸術表現、メディア環境を含めた社会のあり方について考える場を提供する映像祭です。本フェスティバルでは、“映像”を映画館で通常かかるような映画、美術館で展示される映像アート、または個人の日記的表現などを含めて横断的に捉えます。国内外の優れた最新作の上映、映像作家やキュレーターとの対話やレクチャーによって、多くの人に映像とより近く触れる機会を創出するのが本フェスティバルの目的です。
本年のテーマは「ヴォイセズ」。異なる状況に生きる多様な個人の“声”と、その存在の証としての芸術表現に注目します。

シアター・イメージフォーラム IF

	8/4 [sat]	8/5 [sun]	8/6 [mon]	8/7 [tue]	8/8 [wed]	8/9 [thu]	8/10 [fri]	8/11 [sat]	8/12 [sun]
13:00	G マニフェスト 1作品95分	N かわなかのぶひろ 2作品85分	A 東アジアコンペティション1 8作品97分	C 東アジアコンペティション3 5作品95分	S-7 外国人よ、出て行け! 1作品90分	S-3 テロ2000年集中治療室 1作品60分	S-6 友よ! 友よ! 友よ! 1作品73分		
15:45	J 短編プログラム たどり着かない物語 4作品76分	M-1 シルバー特集1 4作品72分	B 東アジアコンペティション2 8作品97分	S-1 アドルフ・ヒトラー100年 2作品57分	S-8 U3000 2作品64分	S-4 ボトロップの120日 1作品60分	16:15 D 東アジアコンペティション4 1作品153分		
18:30	O 奥山順市 6作品48分 +レクチャー	S-4 ボトロップの120日 1作品60分	S-3 テロ2000年集中治療室 1作品60分	S-5 フリークスター3000 1作品75分	S-6 友よ! 友よ! 友よ! 1作品73分	L インド実験プログラム 4作品78分	19:30 E 東アジアコンペティション5 1作品156分		
21:15	S-1 アドルフ・ヒトラー100年 2作品57分	S-2 ドイツチェーンソー大量虐殺 1作品60分	I カニバ 1作品95分	Q クルト・クレン特集 16作品61分	S-2 ドイツチェーンソー大量虐殺 1作品60分	S-5 フリークスター3000 1作品75分		S-7 外国人よ、出て行け! 1作品90分	S-8 U3000 2作品64分

スパイラルホール
東京都港区南青山5-6-23
(スパイラル3F)
地下鉄表参道駅(銀座線・千代田線・半蔵門線)
B1/B3(エレベーター有)出口

[シアター] イメージフォーラム
全席指定／入替制
東京都渋谷区渋谷2-10-2
渋谷駅より徒歩8分 宮益坂上がり青山通り
表参道方面ひとつ目の信号右入る

フェスティバル提携カフェ
スタンドフ スタンド7
半券提示でお得なサービスも。
詳細はホームページをご覧ください。

スパイラルホール SP

	8/8 [wed]	8/9 [thu]	8/10 [fri]	8/11 [sat]	8/12 [sun]
11:00		10:30 D 東アジアコンペティション4 1作品153分	L インド実験プログラム 4作品78分	A 東アジアコンペティション1 8作品97分	G マニフェスト 1作品95分
13:40	15:30 E 東アジアコンペティション5 1作品156分	H マタンギ 1作品95分	13:00 P-1 山崎博1 11作品69分 / 14:30 P-2 山崎博2 8作品62分	B 東アジアコンペティション2 8作品97分	F 蟲 1作品98分
16:20		J 短編プログラム たどり着かない物語 4作品76分	Q クルト・クレン特集 16作品61分	C 東アジアコンペティション3 5作品95分	16:00 K アニメーション特集 3作品77分
19:00	F 蟲 1作品98分	K アニメーション特集 3作品77分	I カニバ 1作品95分	H マタンギ 1作品95分	18:00 授賞式 + M-2 シルバー特集2 2作品63分

入場料(消費税込)

スパイラルホール／シアター・イメージフォーラム

■会期中販売
【1回券】一般1,500円／学生800円／会員1,100円
【4回券】一般4,000円／学生2,000円
【フリーパス】10,000円／学生5,000円
※シアター・イメージフォーラムでは、上映日の3日前からオンラインまたは劇場窓口で座席指定ができます。詳しくは事務局までお問い合わせください。
※スパイラルホールでは、上映開始15分前に日時指定鑑賞券をお持ちのお客様から整理番号順でご入場いただき、その後当日券、特別鑑賞券のお客様が受付順に発行された整理番号順でご入場いただきます。

チケットぴあ、ローソンチケットなどで特別鑑賞券を発売中!
■特別鑑賞【1回券】1,200円 【4回券】4,000円 【フリーパス】10,000円
チケットぴあ ——— TEL:0570-02-9999 Pコード:467-647
ローソンチケット —— TEL:0570-000-777 Lコード:東京32599
※特別鑑賞券はシアター・イメージフォーラムでのオンライン予約にはご使用できません。
※ご購入時の日時指定はできません。
※4回券、フリーパス券はお一人様用です。複数名ではお使いになれません。
※特別鑑賞券は上映会場窓口での受付が必要です。満席の場合はご鑑賞いただけない場合がございます。

スパイラルホールでのプログラムは日時指定鑑賞券をチケットぴあで7月14日より発売!(限定枚数)
■日時指定鑑賞【1回券】1,300円
チケットぴあ ——— TEL:0570-02-9999 Pコード:558-716
※自由席・整理番号制。プログラムの上映開始15分前に整理番号順で開場します。

イメージフォーラム・シネマテーク(3F「寺山修司」)

8/8 〔WED〕	19:00〜 ミート・ザ・キュレーターズ1 エドゥアルド・J・リハーノ (Qシネマ国際映画祭ディレクター／フィリピン)
8/9 〔THU〕	20:30〜 ミート・ザ・キュレーターズ2 シャイ・ヘレディア (Experimentaディレクター／インド)
8/10 〔FRI〕	14:00〜 サンディープ・チャンドラ・アシュワート (アニメーション研究者／インド)
8/12 〔SUN〕	11:15〜 U ワーキングタイトル2018-2019 シンポジウム+参考上映
	14:00〜 R-1 ANIME ASEAN1
	17:00〜 R-2 ANIME ASEAN2

■当日券のみ(ミート・ザ・キュレーターズは本フェスティバルの半券提示で無料)
【1回券】一般700円／学生500円／会員500円
※自由席・各回入替制
※4回券、フリーパス券もお使いいただけますが、差額の払戻はできません。

image forum festival 2018
イメージフォーラム・フェスティバル2018事務局
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2-10-2
TEL. 03-5766-0116

■若干の上映作品の変更、上映順、上映フォーマットの変更が生じる場合もあります。予めご了承ください。

IMAGE FORUM / GOETHE INSTITUT / 芸術文化振興基金 / オーストリア文化フォーラム / 渋谷 東急REIホテル / spiral / Embassy of Belgium in Tokyo / CANADA